

二〇一〇年六月二一・二三日 土曜礼拝・第一・第二礼拝

主題：『傑作人生を生きよう』 説教者：藤林いざや師

二〇〇三年テーマ「神の傑作」

聖書箇所：創世記二章四節b～七節、イザヤ書六四章七節

(聖書箇所)

創世記2:4b-7

4b 1) 神が天地創造の由来である。主なる神が地と天を造られたとき、地上にはまた野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。しかし、水が地下から湧き出て、土の面を耕すべし。

7 主なる神は、土(アダマ)の塵(ちり)で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

イザヤ書64:7

しかし、主よ、あなたは我らの父。

わたしたちは粘土、あなたは陶工

わたしたちは皆、あなたの御手の業。

(聖書解説)

創世記二章四節b～七節

A (人間中心の創造物語) 2:4bからの創造物語は、人間を中心に展開していく。主なる神は、まず特別な心遣いによって、人間の登場する環境を準備されたのである。

B (潤された塵) 「塵(ちり)」は水分を含めば()になる細粒土のことである。

C (手造りによる創造) 神は陶器職人のように、粘土を()、人間を造形された。

D (命を与える神) 《鼻に命の息を吹き入れられた》古代メソポタミアの人々は、命は鼻に潜んでいると考えた。人は死んだら、息をしなくなるからである。

イザヤ書六四章七節

E 神は陶器職人が粘土から日常用の器や美術品を造り出すように、手ずからイスラエルを創造した。

B・粘土 C・こねて

メッセージポイント

一人一人が、()の存在である
ことを自覚しよう。

()の手に自らを委ね、日々、自在
に造り変えられることを求めよう。

参照)詩編51:12 神よ、わたしの内に清い心を創造し
新しく確かな霊を授けてください。

「神の傑作」の使命は、「()」と「幸
せ」を届けることである。

参照)詩編89: 神に僅かに劣るものとして人を造り

なお、栄光と威光を冠としてただかせ

7 御手によって造られたものをすべて治めるように
その足もとに置かれました。

8 羊も牛も、野の獣も

9 空の鳥、海の魚、海路を渡るものも

10 主よ、わたしたちの主よ

あなたの御名はいかに力強く

全地に満ちていようとしよう。

参照)フライ人への手紙2:10 信仰がなければ、神に喜ばれること
はできません。